

令和7年度森林吸収源インベントリ情報整備事業中部・近畿ブロック現地講習会報告

開催日：2025年6月3日（水）

時間：8時20分～13時45分

場所：岐阜県郡上市（格子点 ID：210350）

受講者：（株）GT フォレストサービス（7名）

講師名：伊藤江利子（責任者）、小林政広、渡壁卓磨、（森林総研関西支所）、橋本徹（森林総研立地環境研究領域）

場所の概要：調査プロットは、北側に緩やかに傾斜する山腹平衡斜面であり、スギ・ヒノキを主体とする針葉樹林であった。下層植生が乏しいだけでなく、間伐が実施されたため、林内の見通しは良好であった。ヤマビルがいたので、作業時に注意する必要があったが、幸いにも被害は未然に防ぐことができた。

講習会概要：当日は雨が続く予報であったが、車両の停車場所から調査プロットまでアクセスが良く、急傾斜の斜面を歩く必要もほとんどなかったため、予定通り講習会を実施した。今回で5年目の開催であったことから、作業中には経験豊富な受講者が経験の浅い受講者へ適宜助言をするなど、良いチームワークがみられた。第三期の調査から講習会までの期間中に、プロット内とその周辺で間伐と新しい作業道の開設が行われ、この作業道は過去の野帳には記入されていなかった。この影響で、北側と西側の杭はあるべき場所に打たれていないようにみえた。この場合の対応について、講師・受講者でマニュアルの確認と話し合いをして、調査方針を決定した。その他、調査法に関する基本的な事項を指摘した。

指摘事項：

- ・西側の杭は真西からずれた位置にあり、北側の杭は新しい作業道の端に打たれており、大円半径頂部より明らかに中心杭側にあった（写真1）。これらの杭は間伐作業時に動かされたようにみえたが、このような場合でも、調査時に円周杭は見つかっているので、杭が見つかった場合には通常通り作業を進めるマニュアルの基本方針に従って、杭の位置を修正せず、調査を実施した。
- ・この影響で、北側の土壤断面の作成位置が、作業道の中央と重なってしまった（写真1）。本来であれば作業道上でも土壤調査を行うが、該当の作業道は開設から日が浅く、今後も使用される見込みがあることから（写真2）、作業道の機能を損なわないよ

うにするため、今回は土壤調査を中止する判断を下した。

- ・倒れた根株を写真撮影する時、可能なら起こした状態で根株断面が見えるようにすること（写真3）。ただし、起こした場合は、次期調査のために元の状態に戻すこと。
- ・堆積有機物の採取時、土壤が付着しないギリギリまで試料を採取する（写真4）。
- ・土壤円筒を持ち上げるとき、根が土壤断面と繋がって残っていることもあるので、しっかりと根を切ってから作業をすること。試料を整形するとき、剪定はさみの刃の向きをよく見て、円筒と刃が密着するように取り扱うこと。

全体講評：5年目の講習会で経験を積んでいる受講者が多く、雨のなかであっても円滑かつ丁寧に作業できていた。イレギュラーな事態にあたった場合には、マニュアルを読み直して対処することで、より確実な調査の遂行が期待できる。

